

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-1 農の可能性に自信のもてるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
農林振興課	農業経営支援と新たな農業へのチャレンジ	○機械化や農地集積等による省力化と生産性向上を推進します。 ○高収益が見込める品種の周知を図ります。 ○効果的な有害鳥獣対策を研究・普及します。 ○化学肥料削減に取り組む農家への支援として有機転換についての支援を行うなど、環境負荷を減らした持続可能な農業を推進します。 ○守るべき農地を明確化し、担い手への農地集積が円滑に行えるよう「地域計画」を作成します。	地域計画策定数（累計）	0	11	11	★	○持続可能な農業経営の推進を図るため、新規補助事業創設の検討及び、既存補助事業の見直しを進める。 ○6年度末に策定された地域計画を地域の実情に即した計画になるよう随時調整を図る。	●町内全域で地域計画を策定 ●内子町有機質肥料等利用促進事業補助金を創設し事業に取り組むことができた。（事業実施人数179名）
農林振興課	担い手確保・就農支援	○新規就農者の確保や親元就農への支援を継続します。 ○就農研修制度の充実を図ります。 ○認定農業者及び認定新規農業者の確保に取り組めます。	認定農業者数（単年度）	169人	162人	169人	★	○『新・農業人フェア』に参加し、新規就農者を確保するとともに、就農支援に向けた補助制度を活用しつつ、就農者の支援継続を図る。	●5名の新規認定を行った。 ●新たに設けた就農応援事業では、新・農業人フェアをきっかけに移住した2名の支援を開始。町内認定農業者の元で独立自営就農に向けて研修を行った。 ●親元就農支援事業では新たに1名について支援を開始した。
			認定新規農業者数（累計）	20人	21人	25人	★		
農林振興課	産地プロモーションの推進	○都市部への特産品PR活動と取引先確保を継続します。 ○産地の差別化を図る新PR活動として、SNSなどを利用した攻めのPUSH型から、口コミなどから広がる待ちのPULL型まで幅広く推進します。	大都市圏でのPR活動（単年度）	2回	3回	3回	★	○関東、関西の都心部で開催する『内子フェア』を中心に、町内の特産品・物品を強力にPRすることで、新規販売ルートの開拓、産地の差別化を図る取り組みを推進する。	●大阪梅田ディーズスクエア、東京都庁において内子町フェアを実施した。また、東京ビックサイトで開催されたアグリフードEXPOに参加し、新規取引先の開拓が出来た。

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-2 農・食の掛け算で魅力を生むまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
農林振興課	さらなる魅力ある商品の開発	○内子町の農産物などを通じた魅力発信拠点として、出荷者の確保と内子らしい商品の充実に取組みます。 ○内子を代表する土産物（特産品）の開発を後押しし、ブランド化を図ります。 ○宜野座村との交流事業など、食をはじめとする文化や技術の交換を行い、双方の文化および技術の伝承と相乗効果を高めま	じゃばら商品の開発（累計）	6種類	11種類	10種類	★	○季節に応じた農産物の確保増を目指す。 ○宜野座村との交流は、継続的に互いの祭りや道の駅を中心に交流を深める。	●既存商品（果汁、コンク、サイダー、ビール、飴、マーマレード） ●新規商品（飲む酢、クラフトビール、ドレッシング、ボン酢、ゴマドレッシング）
			宜野座村との産品交流の実施（単年度）	2回	2回	2回	★		
小田支所	さらなる魅力ある商品の充実	○内子町の農産物などを通じた魅力発信拠点として、出荷者の確保と内子らしい商品の充実に取組みます。 ○内子を代表する土産物（特産品）の開発を後押しし、ブランド化を図ります。 ○せせらぎは、産業の振興、賑わいの創出、地域に暮らす人々の生活支援など、持続的発展を担える地域づくりの拠点施設として、第3期整備基本構想・基本計画に沿った整備を具現化します。	せせらぎの新商品開発（累計）	1	1	2	★	○地域おこし協力隊と連携し地域資源を利用した新商品の開発とブランド化を進め、新たな出荷者の確保と出荷品目の拡大を目指す。 ○道の駅「小田の郷せせらぎ第3期整備基本構想・基本計画」の方針に基づき、整備を進める。 ・せせらぎ倉庫解体設計 ・加工所兼倉庫新築工事	●令和7年度より常勤の駅長を配置し、出荷者組合、せせらぎ担当地域おこし協力隊と連携して新たな出荷者の確保を目指した。その中で、パンや木工などの新たな人気商品も生まれているほか、地域おこし協力隊によるコラボ商品の開発などを行い、出荷意欲を後押しできるよう努めた。 ●道の駅「小田の郷せせらぎ第3期整備基本構想・基本計画」の進捗・実績は以下のとおり。 ①道の駅小田の郷せせらぎ加工所 倉庫建築主体工事(29,139千円) ②道の駅小田の郷せせらぎ加工所 倉庫設備工事(7,201千円) ③道の駅小田の郷せせらぎ加工所 倉庫新築工事監理委託業務(1,012千円) ④道の駅小田の郷せせらぎ倉庫解体工事設計委託業務(5,819千円) ⑤道の駅小田の郷せせらぎ特産品販売所増築設計委託業務(6,985千円)

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-2 農・食の掛け算で魅力を生むまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
農林振興課	道の駅の機能強化	○子育て世帯や外国人訪日客も利用しやすいよう施設の機能を見直し、誰もが使いやすい道の駅を目指します。 ○道の駅自体の防災力の向上、再生可能エネルギーの導入を図ることで、より強靱な道の駅づくりを進めます。 ○地域の中心部に位置する立地を生かし、地域の憩いの場であり、かつ、地域をつなぐハブ的役割を担うための仕組みづくりを進めます。	子育て世帯にやさしい環境づくり	1カ所	5カ所	5カ所	★	○施設の老朽化が著しく、計画的に施設の修繕・改築等を行う。防災力の向上については、再生エネルギーの導入及び施設機能の充実を図る	●子育てに優しい環境づくり 授乳室1カ所、おむつ替え台4カ所 ●再生可能エネルギーの導入 令和6年度に直売所、令和7年度に加工場に太陽光パネルを設置した。
			再生可能エネルギーの導入	0カ所	2カ所	3カ所	★		
小田支所	道の駅の機能強化	○子育て世帯や外国人訪日客も利用しやすいよう施設の機能を見直し、誰もが使いやすい道の駅を目指します。 ○地域の中心部に位置する立地を生かし、地域の憩いの場であり、かつ、地域をつなぐハブ的役割を担うための仕組みづくりを進めます。	—	—	—	—	—	○地域商店と協働で定期的に地域イベントやマルシェを開催し、高齢者が参加しやすい環境を整える。これにより、地域住民同士の交流を促進し、さらには地域商店への関心を高めることを目指す。 ○地域住民が参加できるイベントを通じて、高齢者同士や若い世代の交流を促進し、孤立感を軽減する。特に、体験型イベントの充実を図る。	●せせらぎデーやビアガーデンの運営を通して、生産出荷組合や料飲組合、小田分校性がイベントに関することで、地域全体で地元の消費活動へ積極的に関与する大切さの意識醸成を図った。

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-3 森林の循環を生業とするまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
農林振興課	山の循環の促進	○幹線林道だけではなく、支線や作業道などの基盤整備を推進することにより、施業の効率化を目指します。 ○本町に多い急傾斜地における木材の搬出において、林業事業者と協力しつつ、効果的な方法を検討していきます。 ○森林経営管理事業に取り組み、手入れが行き届いていない山林の活性化を図ります。 ○森林資源の循環促進するため、民間事業者との連携を図ります。 ○林業の省力化等を図るため、ICT化や機械化の導入に向けた勉強会の開催や導入補助の検討などを進めます。	町産材利用木造住宅への補助（単年度）	11件	5件	15件	★	○活用実績の少ない補助事業の見直しを図る。 ○引き続き森林整備の促進を図る。 ○人口減少や物価高騰等により住宅建設件数が減少している状況だが、町産材利用木造住宅補助利用件数11件（現状維持）を目指す。 ○森林組合等林業事業者と協力し、造林事業（植栽・下刈）57haを目指す。	●人件費、物価上昇のインフレの中、町内での住宅建築件数も減少の一途であるが、施業事業者にも補助金を支給する要綱改正を実施し町産材利用木造住宅補助件数は対前年度比1件増。 ●造林事業 ・植栽 6件 7.42ha ・下刈 94件 51.10ha ●森林整備事業 ・間伐 112件 334.84ha ・作業道 35件 50.976m
			造林（植栽・下刈）等による森づくり（単年度）	56.4ha	58.5ha	60.0ha	★		
農林振興課	担い手の育成・確保	○インターンなど、林業就業者の育成・確保のための仕組みについて検討します。 ○子どもの森林へ興味・関心を高めるため、教育機関と連携し、森林に関する教育を推進します。 ○森林、林業の魅力や可能性を発信し、関心を高めるためのイベント等を開催します。	森林教育関連事業（林ターン等）の実施（単年度）	1件	1件	2件	★	○森林環境譲与税を活用して、森林・林業に係る啓発事業を推進する。 ○安全施業に係る講習会の実施など ○森林教育関連事業は、林ターンを11月頃、学生林業現地授業（中学生）を6月頃に実施する。 ○森林・林業啓発活動は、8月末実施のワンフォレ2025（実行委員会主催）及び11月頃実施予定の親子木工教室（喜多林研連絡協議会主催）への参加・協力を実施する。	●森林整備安全施業講習会を林研グループ等を中心に2回実施。 ●森林教育関連事業では、町内中学2年生を対象に4校において林業VR体験の授業を実施。 ●森林啓発活動（協力） ・ワンフォレ2025 ・親子木工教室 ・しいたけ教室（大瀬小学校・立川小学校）
			森林・林業啓発活動（ワンフォレ等）への協力（単年度）	2件	2件	3件	★		
農林振興課	有害鳥獣対策の推進	○伐採後の植林等において支障となるノウサギやニホンジカなどの有害鳥獣について、被害の状況を把握し、有効な対策を図ります。 ○被害対策として侵入防止施設の整備を推進します。 ○有害鳥獣捕獲従事者の確保を図ります。	有害鳥獣侵入防止施設整備事業延長（単年度）	30,686m	20,232m	40,000m	★	○有害鳥獣捕獲後の処理方法について検証し、捕獲者の負担軽減を図る。 ○捕獲と防除を強力に推進する。 ○より効果的な有害鳥獣対策を図りつつ、有害鳥獣侵入防止施設整備事業は、32,000m延長を目指す。 ○有害鳥獣捕獲従事者数は182人（現状維持）を目指す。	●有害鳥獣捕獲後の処理方法として発酵減容菌床の実験検証実施。 ●有害鳥獣侵入防止施設整備の減については、イノシシ等の被害数の減少した為。 ●有害鳥獣捕獲従事者数の減少は主に高齢による脱退者の増。
			有害鳥獣捕獲従事者数（単年度）	182人	162人	180人	★		

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-4 今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	雇用機会の創出を後 押しする取り組み	○町内企業に就職する新卒者を増やすた め、奨励金等を活用して定住の促進を図り ます。 ○町内企業の経営基盤の安定と強化を進 め、雇用の安定を図るとともに、売上増や 人材確保といった事業継続に貢献できるよ う、新事業や新分野への展開といった事業 再構築への支援を行います。 ○地元の学生が、町外に就職や転出する流 れを変えるため、合同企業説明会を継続的 に実施するとともに、町内企業を知る機会 の充実・強化を図り、地域への人材還流促 進に取り組みます。	就職奨励金の受 給者数（累計）	0人	0人	10人	★	○雇用の場を確保するための 事業者等への情報提供・支援 ○新規雇用者の奨励金制度の 検討	●町内企業の雇用確保及び人材確保 を支援するため、補助制度や支援制 度に関する情報提供を500社（200社 から回答）に行うとともに、事業者 からの相談対応を実施した。 ●若年者の町内就職を促進するた め、若年者就職奨励金制度の創設に 向けた制度設計及び関係機関との協 議・検討を行った。 ●地元学生等の地域定着及び人材還 流を促進するため、合同企業説明会 を開催した。町内外から46社が参加 し、求職者147名が来場するなど事 業者に対し求人や採用に関する情報 提供を行い、人材確保の支援を実施 した。
			創業支援による 創業者数（累 計）	3人	8人	12人	★	○創業・起業を促進するた めのフォローアップ支援 ○事業承継を促進するための フォローアップ支援	●町単独補助事業「はじめる・つな ぐ商工活性化支援事業」を実施し、 町の支援により町内で8名が起業し た。 ●愛媛県が実施している「オープン ネームの後継者探し」に1件エント リした。現在、後継希望者と相談 中。 ●創業支援等事業計画に基づき、え ひめ産業振興財団と共催し、町単独 の創業塾セミナーを開催。受講者11 名に対しきめ細かな支援を実施し た。
			事業承継マッ チング支援による 実施件数（累 計）	0件	0件	5件	★		
町並・地域振 興課	今と未来を繋げる マッチング支援	○継がせたいと思う企業を見える化すると ともに、承継までに至るプロセスの確立を 図り、継がせたい企業と後継者候補との マッチング率を向上させます。 ○これから創業・起業をしたいと考える人 材同士の横のつながりを構築し、業種を問 わず様々な経営者とのつながりを持たし、 コラボ商品（新商品）の開発を促すなど、 企業意欲のある人材の発掘と教育に取り組 みます。 ○デジタル技術を活用した業務効率化や生 産性向上など DX 推進に向けた支援や人材 育成、事業承継などの経営課題の解決に向 けた取組を支援します。	創業塾セミナー 受講者数（累 計）	6人	11名	30人	★		

基本目標：Ⅱ 生業づくり 分野テーマ：Ⅱ-4 今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	町内企業の魅力発信 と稼ぐ力の向上	○企業紹介パンフレットの作成、SNS媒体での情報発信等、若者に町内企業の魅力をより目のつく方法で発信し町内企業の認知度向上を図ります。 ○顧客ターゲットを町内、県内だけでなくECを活用して県外や海外へ視点を広げるため、EC事業に対するセミナー開催等の支援を強化します。 ○町産品を明確化し、認知度向上に向けた情報発信と販路拡大の支援に取り組むとともに、魅力ある新たな産品の創出やブランド力の向上、生産性の向上等に向けた取組を支援し、販売促進に取り組めます。 ○産業振興のために産業用地開発も視野に入れながら支援制度の充実を図り、町内企業と競合しない企業の誘致・進出を促します。	町内企業の業況 調査数（単年 度）	36回	248回	50回	★	○魅力的な企業を紹介するための情報発信 ○町産品販路拡大のための支援強化 ○企業誘致を促進するための調査及び愛媛県との連携強化	●新規支援事業の創設に向け、町内事業者の業況及びニーズ調査を実施した。アンケート回答200事業者、個別訪問48社の結果を踏まえ、新規事業（2事業）を創設した。 ●町内企業の認知度向上及び就職機会の創出を目的として、SNS（インスタグラム）を活用し、町内企業の情報発信を毎月行った。計60投稿。 ●町産品の販路拡大の為、9月に大阪、3月に東京において観光物産展を開催し、昨年を上回る売り上げと新たな販路開拓もできた。現在は、飲料メーカーと連携し、じゃばら果汁を使った新商品開発に取り組んでいる。 ●「産業用地整備実務研修会」に参加し、産業用地整備に関する知識の習得を図るとともに、大規模企業誘致に加え、空き家等の地域資源を活用したサテライトオフィス誘致の検討を行った。
町並・地域振 興課	商い（飽きない）町 へ	○既存店舗などに対する店舗改装、通信環境の整備、新商品の開発等の支援を検討します。 ○事業を継続するために必要な資金の調達を促進し、経営の安定を図ります。 ○空き店舗等の情報収集に努め、創業を後押しします。 ○滞在型観光を視野に入れた商品開発や電子決済やEC販売などのICT活用等の促進を図ります。 ○地域の特色を生かした魅力ある個店の創出等を促進し、新たな観光需要などの域外需要の取り込みを図ります。	既存店舗のリ ニューアル件数 （累計）	0件	0件	10件	★	○経営の安定を図るための支援強化 ○商店街の空き店舗の調査及び利活用の促進	●既存事業者の事業継続及び経営基盤の強化を支援するため、関係機関と連携しながら事業者への聞き取りや情報収集を行い、経営課題や支援ニーズの把握に努めるとともに、課題解決に向けた新規支援事業の創設に向けた検討及び準備を進めた。 ●既存の支援制度を活用し、関係機関と連携しながら空き店舗等の情報提供や活用相談、改修等への支援を行った結果、新規出店や事業所開設など8件の空き店舗等の活用につなげることができた。
			空き店舗等の活 用件数（累計）	4件	8件	15件	★		

令和8年度 第1回内子町まち・ひと・しごと創生推進会議での主な意見等

基本目標	Ⅱ 生業づくり
分野テーマ	Ⅱ-1 農の可能性に自信のもてるまち
	Ⅱ-2 農・食の掛け算で魅力を生むまち
	Ⅱ-3 森林の循環を生業とするまち
	Ⅱ-4 今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち
意見等	・町内に住んで町外で仕事をする若者への助成はないのか。近隣市町の事業所との情報共有は出来ているのか。 ・雇用の項目において、外国人人材（技能実習生など）の活用や多文化共生という視点が欠けているように感じる。地元の産業を支える重要な存在として、アプローチを考えるべきではないか。 ・海外に出るだけが国際化ではなく、日本の中での「内なる国際化」も重要。高度人材の活用も叫ばれ外国の方々を県内に就職させようというプロジェクトも拡大している。労働者としてだけでなく、一緒に暮らして文化を学ぶ「共生」の視点も少しずつ入れていただければと思う。 ・外国人労働者が住むための住宅（家賃の安さや物件の確保）が不足しているとの声を聞く。雇用の間口を広げるためにも、住宅対策を検討していただきたい。 ・高度人材についても紹介できるので、何かあればぜひ活用を。産地プロモーションについては、一般向けの物産展だけでなく、継続的な商流を作るために、ベンダーや卸業者向けの商談会や展示会への参加支援を検討してほしい。一過性の単発のイベントで終わらせない仕組みが必要。また具体的な数値を挙げてその成果をもう少しPRすべきではないか。 ・販路拡大において、内子ブランドを確立し、外へ売りに行くだけでなく、バイヤーを内子に呼んで魅力を知ってもらう「バイヤー招聘事業」を検討すべき。一定の基準を設けて「町産品」を明確にすることで、内子ブランドの確立につながるのではないか。 ・DX推進について、具体的に町内企業に対してどのような支援を行っているのか。RPAの導入など具体的な補助も検討していただきたい。 ・じゃばらの新商品開発について、その過程の町と民間企業の役割分担はどうなっているか。また、じゃばら以外の商品開発についてはどうか。強みになればふるさと納税の返礼品にもなるのではないか。 ・近年の気候変動により、主力であるフルーツの収穫時期が安定ない。農産物を確実に売る手段として、ふるさと納税の現状と今後の展望は。